



以上、西陣から

sachiko nakahara

中原幸子句集



中原幸子の俳句はとても伝統的です。
世間では生真面目だけの笑いのない句を伝統的
と称しがちですが、それはまちがい。
俳句は意外性に富んだとてもおかしい文芸です。
幸子のこの句集のように。
以上、ネンテンからでした。

坪内稔典

雷雨です。以上、西陣からでした

母として歯の真っ白に氷水

残像の白くなりゆく立葵

冷素麺まっすぐに上げ世紀末

青葉して今日もベッドの叩き売り

腹ばって行書の一に朝涼し

残暑なおアラビア糊はくつつく気

いいことが朝着くような天の川

七夕の美しく席はずされし

横野の上を風ゆく葉月かな

秋の空指先伸ばしあるがまま

行間のように青空 鱗雲

糸瓜忌の読むように噛むぬくい飯

袋から出す役ばかり秋の昼

鍋
びか
びか
むか
しヨ
ット
に乗
った
こと

ぐ
ずで
ある
こと
いき
いき
と蝸
牛

鐘の音
蟻と雀と
出会い
けり

動く
蝦蛄売
つてお
じさん
はゴム
長

噴水へまっすぐ脚を揃えけり

ザ噴水やるときはやるときもある

二羽つれて来るのは目白、絶対に

ダム夕焼け北がなくなるかも知れぬ

蝉
飛
ん
で
水
槽
管
理
セ
ミ
ナ
ー
へ

水
滴
に
満
た
す
水
滴
涼
新
た

牛
た
ち
の
濡
れ
た
鼻
面
子
供
の
日

呼
べ
ば
顔
出
て
く
る
小
窓
柿
若
葉

服薬は一日三度バラ黄色

緑さすバールのようなものかしら

夏の雲骨がお骨になってゆく

雹コロコロ昼は喪服を着ておりぬ

電
こ
ろ
げ
送
っ
て
行
っ
て
送
ら
れ
て

白
波
の
室
戸
に
五
人
枇
杷
す
す
る

せんせいはどしやぶりわたしきゅうりもみ

先生も武蔵燈もうつむいて

ワンちゃん逝く

初夏の遺影は紺を着ておりぬ

ジューンドロップ何かことこと煮てみたき

花かぼちや顔洗ったかどうだかな

梅雨晴れ間タマゴが好きなこと秘密

梅雨明けて犀は一本角をもつ

モジリアニあるいは蕪村夏の川

雲
の
峰
わ
が
天
敵
の
鼻
の
穴

男
心
男
の
心
雲
の
峰

と、
思っ
たら
もう
出目
金の
うご
き出
す

ペ
ン
皿
に
耳
搔
き
の
あ
り
夕
涼
し

猫
族
よ
走
れ
海
底
火
山
噴
く

あ
も
う
ん
も
ギ
ニ
目
み
ど
り
の
戦
ぐ
か
な

ねばならぬこと
蟬の穴母に似る

人間をゆっくりと見て滴れる

山若葉帽子をひよいと上げただけ

むかしあるところに生まれかたつむり

蛭ほう野村君はどうしたろう

ほたるほたるポケットにキーホルダー

チヨ―暑し勝手に死ぬことを禁ず

ふわっふわ蟻あげる子ともらう子と

シュークリーム割ればクリーム鳥の恋

四月馬鹿あっちこっちに気のあう木



句集 以上、西陣から（いじょう、にしじんから）

二〇〇六年七月七日 初版発行

著者——中原幸子

発行人——山岡喜美子

発行所——ふらんす堂

〒182-0002 東京都調布市仙川町一—九—六一—二〇二

電話——〇三（三三三二六）九〇六一 FAX〇三（三三三二六）六九一九

ホームページ <http://furansudo.com/> E-mail fragie@apple.ifnet.or.jp

振替——〇〇一七〇一—一八四一七三

装幀——君嶋真理子

印刷所——トヨヨー社

製本所——並木製本

定価——二六〇〇円（本体二四七六円＋税）

ISBN4-89402-834-4 C0092 ¥2476E